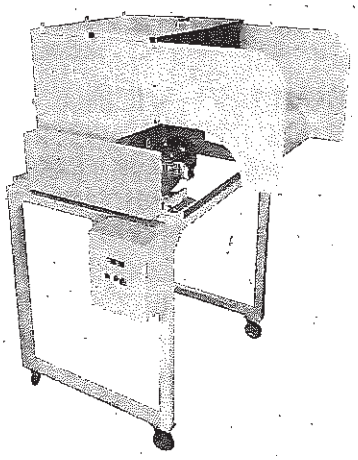
TYPE OF INDUSTRY

モノづくり基盤・成長企業

投入口 最大120×60cm

省エネ型粗破砕機 発売

日本シーム



【さいたま】日本シーム（埼玉県川口市、木口達也社長、048・298・7700）は、最大120センチ×60センチメートルの大型投入口を持つ省エネ型粗破砕機「メガシャーク」（写真）を近く発売する。大型プラスチック製品を粗破砕する能力を持ちながら、破砕部に小型高トルクモーターを採用し、消費電力を従来の10分の1にした。消費税抜きの価格は約350万円から。初年度30台の販売を目指す。

同社は従来、24時間稼働で大量処理するリサイクル業者向けに、大型プラスチック製品の粗破砕が可能な大口型破砕機を販売。ただ電力消費が大きく、1000万円前後と高額であるため、産業廃棄物の中間処理業者から低価格・省エネ型機のニーズが高かった。

新製品は投入部は大口型にもかかわらず、大幅に省エネ化。投入口の寸法は80センチ×60センチメートル―120センチ×60センチメートル。投入された対象物を回転刃で巻き込みながら固定刃で引っかけ、切断する仕組み。低速回転により破砕物が跳ね上がるのを防ぐ。

破砕部の下部にスクリーンが設置されており、破砕対象物が20センチ×20センチメートル以下の均一サイズまで破断されない限り下降せず、破砕し続ける。乾式・湿式に対応する。同社既存の粉砕機と連結可能。開発費用は1000万円。

南町産業のECサイト商品ページ（イメージ）

月期の売上高は約80億円で、そのうち貿易事業が8割を占める。

10―12月期中小企業景況

採算・資金繰り改善

全国連まとめ

全国商工会連合会がまとめた2015年10―12月期の中小企業景況調査によると、売上高DI（景気動向指数）は2期連続の悪化となったが、採算と資金繰りのDIは2期ぶりの改善となった。だが、いずれも小動き。経営上の問題点として「需要の停滞」が増加傾向にある。

全産業ベースで、売上額DIは前期比1・0ポイント低下し13・1ポイント低下の21・9と小幅悪化。採算DIは1・4ポイント上昇し24・8、採算DIは0・3ポイント上昇し19・2。資金繰りDIは3・0ポイント上昇し10・5。建設業は完成工事DIが4・7ポイント上昇し11・9。資金繰りDIは1・2ポイント上昇し21・9。サービス業は売上額DIが0・7ポイント低下し20・6。採算DIは0・7ポイント上昇し33・1。資金繰りDIは1・2ポイント上昇し21・9。

業種別に見ると、製造業は売上額DIが29・3ポイント上昇の15・2とそれぞれ小幅改善した。

また、小売業は売上額DIが4・4ポイント低下し17・7。採算DIは5・8ポイント上昇し24・7。資金繰りDIは18・2。資金繰りDIは2・3ポイント上昇し8・4。

経営上の課題については、一番の問題点として「需要の停滞」が製造業で2期連続で増加、25年7―9月期以来の水準に上昇。建設業でも「官公需の停滞」が4期連続増加、「民間需要の停滞」も3番目に入っている。

小売業では大型店・中型店との競争が激しく「需要の停滞」は3位と目立った動きがないが、このところ減少傾向にあったサービス業でも1・6ポイント上昇し20・4％とトップになっている。

ノウハウ活用 他分野進

これまでにコップやカレー皿などを製品化した。東京都羽村市のイベントで使用されるなど、認知度を上げている。近藤伸二社長は「本業の技術やノウハウを生かせる他分野にも挑戦する」と意気込む。（立川）

▽所在地＝東京都武蔵村山市伊奈平2の6の5▽資本金＝300万円▽売上高＝3500万円（15年5月期）▽従業員＝8人▽設立＝65年（昭40）5月

やセラミックス製の刃物も取り扱い、顧客の要望に応える。年間売上高2億円を目指す。

同社は自動包装機械用刃物などを仕入れ、機械メーカーや商社に販売している。日刃標準規格刃物のほか特注品の工業用特殊刃物も取り扱う。関西、北陸、中国、四国、九州地区で事業を展開する。